

ゴムロケットを飛ばそう

溝邊和成（兵庫教育大学 学校教育研究科）

5歳児と小学校1年生にゴムの力を感じるクールなおもちゃを用意しました。太いゴム、長いゴム、たくさんつないだゴムなどを使ってためてみましょう。ロケットをよく飛ばすのは、どんなゴムをどうしたときかな???



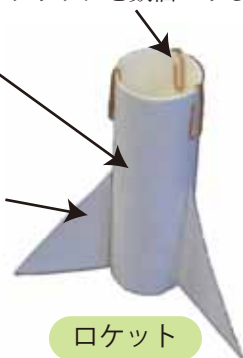
飛行を安定させるために、クリップを数個つける。

トイレットペーパーの芯。画用紙に絵を描いて貼付けてもよいし、直接絵を描いたり、色を塗ったりしてもよい。

三角形に切った画用紙をセロテープでしっかりつける。



飛行を安定させるために、クリップを数個つける。



ゴムの種類をいろいろ用意しておいて、子どもたちに選ばせる。



ロケットを長い棒に差し込み、短い棒に引っかけてゴムを引き、勢いよく発射!

発射台

30cm～50cmの棒に、ガムテープでゴムをしっかり固定する。

8cm～15cmぐらいの棒を、ゴムにしっかり固定する。



指導のポイント

- **自ら材料を選択させ、目的を明確にした探究型の活動を：**何となくゴムを使ったものをつくるのではなく、どこをどのように変えるかを意識する活動を勧めます。科学概念の芽生えには必要です。
- **子どもたちの思考を持ち出す場を：**ゴムロケットで遊んだ後、「なぜこうなるの?」の場を用意し、考えを引き出し合ひましょう。ゴムの図や絵を書きながら説明させる場も効果があります。
- **活動を振り返りながら、実践をことば化する場を：**活動終了後、ことばを使ってまとめましょ
- う。もちろんゴムロケットを飛ばす実演、写真を用いた説明、アンケート方式のことば化もOKです。
- **一つの活動から発展した活動を：**子どもの意識の連続を保障したいものです。言語をはじめ、音楽、造形、身体等の表現も重ね合わせていけば、ゴムロケットから新たなゴム遊びが生まれるでしょう。
- **家、科学館などを第二の園・教室に：**園・教室で学んだゴムのエネルギーについて、家庭でも追体験したり、科学館などへ出かけたりする機会を設けると、興味・関心がより深まります。